

# 義務教育学校

- 参考文献

- ・ 小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き（文科省）
- ・ 9年間の学び舎をつくろう

（国立教育施策研究所 文教施設研究計画講演会）

- ・ 義務教育学校等の施設計画の推進に関する研究（文科省）
- ・ 義務教育学校に関する資料(岡山県教育庁義務教育課)
- ・ 美咲町立棚原義務教育学校
- ・ 郡山市立西田学園
- ・ 信濃町立信濃小中学校



## 義務教育学校とは・・・

	義務教育学校	小中一貫校
就業年数	9年(前期6年と後期3年の課程の区分は確保)	小学校6年 中学校3年
教員数 組織	1人の校長 一つの教職員組織	学校ごとに校長 学校ごとに教職員組織
教育課程	9年間の目標設定 9年間の系統性を確保した教育課程の編成	小・中学校それぞれの教育目標設定 小・中学校それぞれの教育課程の編成

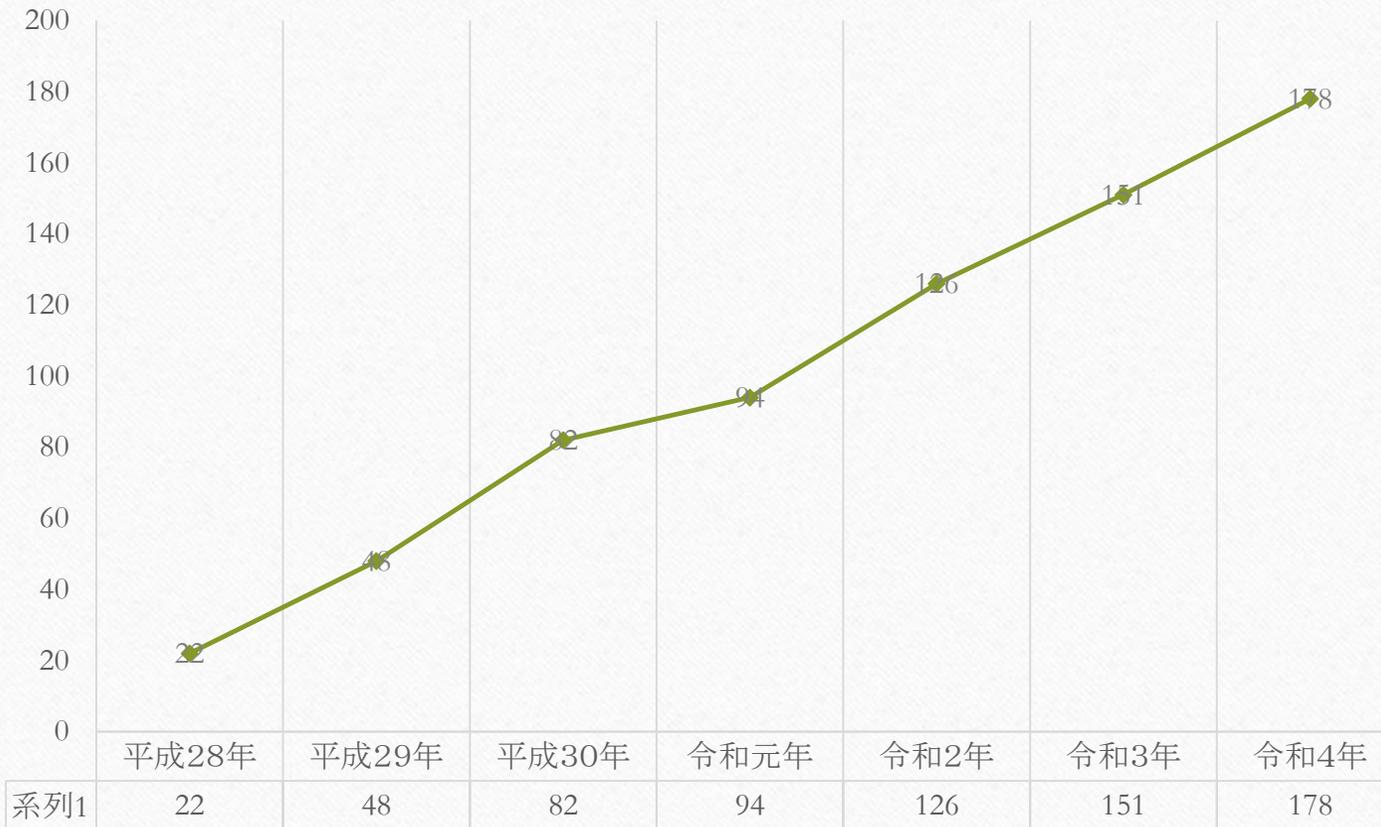
# 学年段階の区切り

## 4 - 3 - 2 年制

<b>基礎・基本の習得期</b>				<b>学びの活用・充実期</b>			<b>進路実現期</b>	
							8年生	9年生
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生		
学級担任制				一部教科担任制			教科担任制	
前期課程 6 年間 (小学校段階)						後期課程 3 年間 (中学校段階)		

# 義務教育学校数の変遷

## 義務教育学校数



福島県内

郡山市

須賀川市

会津若松市

飯舘村

大熊町

川内村

西田学園

湖南小中学校

稲田学園

河東学園

いいたて希望の  
里学園

学び舎ゆめの森

川内小中学園



メリットは・・・

- ①小中ギャップ(中1ギャップ)の緩和・解消
- ②系統性・連続性を意識した小中一貫教育
- ③異学年交流による精神的な発達
- ④継続的な生徒に対する指導



保護者のメリットは・・・

①子どもがどのように成長していくかの見通しが  
持てる

②後期課程に入学しても、前期課程の先生が同  
じ学校にいる

③保護者間のコミュニケーションが増える

デメリットは・・・

- ①小学校卒業の達成感の喪失
- ②リーダーシップや自主性を養う機会の減少
- ③学年数・学級数の増加による施設利用頻度の減少



## 小中一貫教育の成果に関する市町村の総合評価

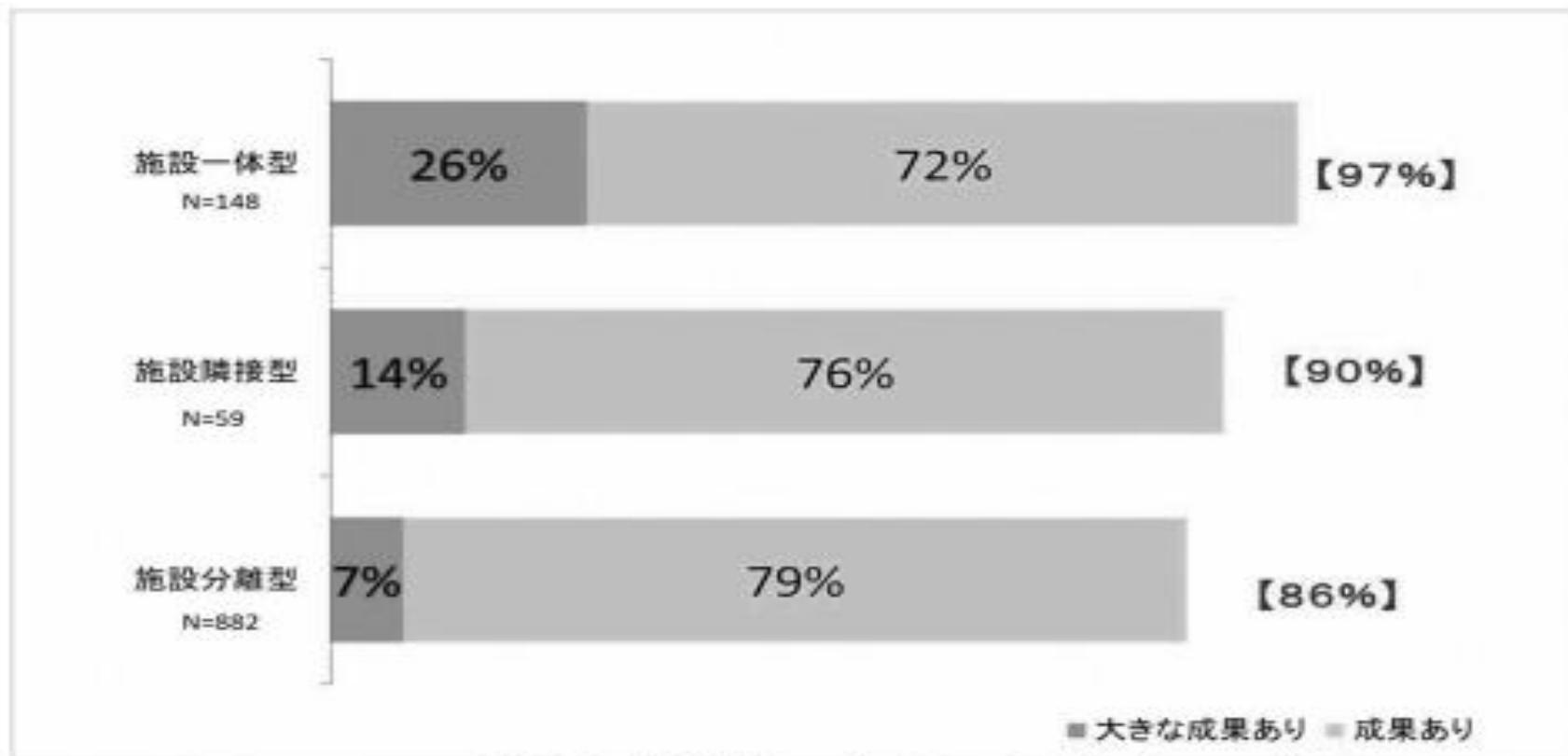


図1-5 施設形態別 小中一貫教育の成果

義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究 報告書 H30.8

# 施設面の総合的な満足度

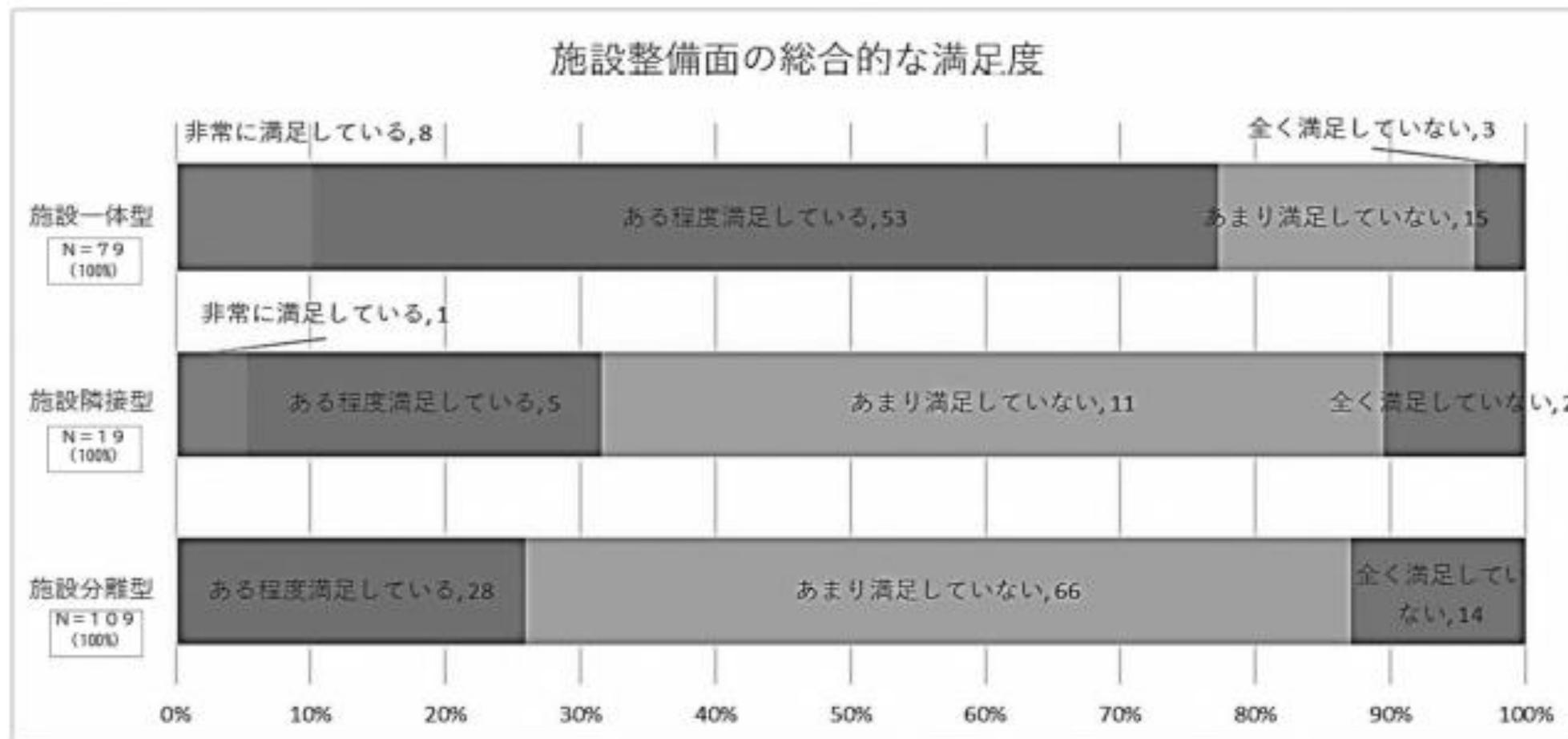


図3-1 施設形態別 施設面の総合的な満足度

信濃小中学校評価検証(第三者による)から 平成30年度～令和元年度

◇児童生徒に関して

- ・社会や知らないことに対する興味関心、友だちとの学び合いについて意識が高い。
- ・いじめ問題や問題行動の生徒指導が少ないため、学校生活態度が落ち着いている。
- ・小学生にとっては、具体的な将来のモデルをイメージできる環境。
- ・中1ギャップが少ない。
- ・信濃町が好きな児童生徒が多い。
- ・5年生からの教科担任制によって専門的指導が受けられる。

◇教職員に関して

- ・子供の成長を9年間で考えられる。
- ・日常的に小学生と中学生に接することができるため、教員にとっても学びの機会が多い。

## くにみ学園として

---

- 義務教育学校として、  
設置を検討しています。



